

ききえやらぬ (坂本龍馬)

解説 当歌の恋の念頭にお龍りょうがあるのではないか。後年、田中頭助が回顧すると、龍馬とお龍が宇治あたりで二人で歩いたか？ 木幡にゆかりがあるらしいお龍の母の貞との関係で、宇治まで出張る機会でもあったのか、想像の余地でしかない。

ききえやらぬ 思ひの さらに うぢ川がわの

語釈 ※ききえやらぬ||消えきらない。消えるはずのものや消えそうなものがまだ消えないでいる様。※うぢ川||宇治川。※川瀬||川底が浅くなっているところ。蛍のメスは産卵のためにここに群衆する。※すだく||集く。群れをなして集まること。

川瀬かわせに すだく 蛍ほたるのみかは

通釈 燻る炎のような恋心にくわわる一層の切なさ、その炎に寄りそってくるのは、宇治川の浅瀬に集う蛍だけではないはずだ。